

# インドネシアで復興探る

## 大槌みらい新聞



2013(平成25)年  
5月15日(水)

第9号

発行  
NewsLab おおつち  
電話 0193(55)5908  
FAX 020(4662)9611  
定価: 50円

2・3面 大槌まちれぽ  
イベント情報

4面 検証復興への道⑨  
雇用

おしらせ

大槌みらい新聞は(株)  
エリアプラスワンの協  
力で配布されています。

### 津波語り継ぐ大切さ実感

#### 大槌の高校生 刈屋さん、坂本さん



津波ミュージアムで被災当時の映像を見る坂本那奈恵さん(右から2人目)

インド洋沿岸で約30万人の津波犠牲者を出した2004年12月のスマトラ島沖地震。釜石高3年で大槌町に住む刈屋知子さんと坂本那奈恵さんが今年3月、最大被災国インドネシアを訪ねた。被災地の思いをどう後世に残していくか。復興世代と呼ばれる高校生が「復興」と向き合った。

2人は、大槌などで復興支援に取り組む国際NGO(非政府組織)グッドネーパーズ・ジャパンが企画した研修「三陸の高校生インドネシアをゆく」故郷の復興を探る旅に参加。計16人が3月17日から12日間、同じ津波被災地の現状や、被害を伝える取り組みを学んだ。一行はアチエ州都バンダ・アチエ市を巡り、

2011年に開館した津波ミュージアムを訪問。19メートルの津波を体感できる部屋、震災直後の街や遺体の写真が飾られている展示室、当時の津波映像を見学した。

「この街に津波が来た」ということを伝える遺構が街中に残されていた。流された船、被災した病院、4万6千人以上の犠牲者が埋葬されている集

団墓地、被災直後の写真を飾るイスラム寺院……。津波で流された船は建物に乗り上げたまま残され、周りを鉄骨で補強

間近に見られるように展望台まで用意されていた。観光船「はまゆり」が民宿に乗り上げた赤浜地

区に住む刈屋さんは、心が揺れた。震災直後、町外の人が「はまゆり」をたくさん撮っていた。見世物みたいで嫌だった。興味本位で来てほしくない。津波を思い

出させる遺構を残すことに反対だったが、「少し考えが変わりました」。

「船と同じ高さになれるのは貴重だと思いましたが。津波の高さを知ってもらえます。でも、私たちが体験した津波の恐ろしさや、周囲を鉄骨で補強

間近に見られるように展望台まで用意されていた。観光船「はまゆり」が民宿に乗り上げた赤浜地

を体感できたりするような津波ミュージアムもつくりたい。でも、津波を体験していない人に、「被災地の思いや悲しみ」も含めて伝えられるだろうか。刈屋さんは伝える難しさを痛感した。

一行は、バンダ・アチエ市から約300キロ離れたムラボ地区も訪問。海が目の前の自宅で家族9人が流されたという女性性は、「絶対に自然災害を恐れないでほしい。私は

怒らないでほしい。私はこれからここに住む。生まれ育った場所を離れる理由はない」と語ってくれた。

坂本さんは胸を打たれた。あんなに海が近く、それも被災したところに

住みたくない。でも「生まれ育った場所を離れる理由がない」という言葉に不思議と納得できる自分もいた。生まれ育った場所が特別だと思いは同じだ。

坂本さんは「研修中、皆で何度も意見交換をした時、復興への思いがバラバラだということに気が付きました。そのバラバラな意見をまず共有したい。刈屋さんは「いま自分ができることはインドネシアで見たこと、感じたことを伝えること。将来は心理学を学び、心のケアで支援できるようにになりたい」と思いを語った。

(武鑑史恵、写真はグッドネーパーズ提供)



バンダ・アチエ市内で被災者の話に聞き入る刈屋知子さん



津波で流された船を見学する一行

# 大槌まちれぽ

町内のホットな話題や出来事をお伝えるコーナーです!

記事はどなたにも書いていただけます。「こんなことお知らせしたい」「こんな写真を撮りたい」等ありましたらお気軽にご連絡ください!  
次の号はどのような紙面にするかを考える企画会議、紙面に載せる記事を選ぶ編集会議を行っています。興味のある方はご参加下さい。

## 町民レポーターから

浪板の英国式庭園「ベルガーディア鯨山」で行われていた「宮沢賢治童話展」の関連イベントで、5月3日、東京都交響楽団首席チェロ奏者・田中雅弘氏のチェロコンサートと、宮沢賢治記念館副館長・牛崎敏哉氏の朗読が行われました。

屋外には適さないというチェロを、まさに「風二モ負ケズ」演奏した田中氏と、まるで賢治が乗り移ったかのような朗読を披露した牛崎氏。さらに、賢治の詩を再現したかのようなベルガーディアの自然。この三者の共演は、約70人の観客ひとりひとりの心に深く染み入ったことでしよう。

(町民レポーター・加藤牧子)

## 「風二モ負ケズ」チェロと朗読



## 町民と支援者交流も満開

4月28日の日曜、旧小籠小学校の校庭で満開となった桜の下で、お花見会が開かれました。地元町民はもとより、内外のボランティアさんも交え、百数十人が参加し、バーベキュー、お抹茶の会、素人手打ち蕎麦などを楽しみました。

お花見実行委員会(代表・中村尚さん)が、仮設住宅の町民に限らず、在宅者、支援者との交流も図ろうと企画しました。大槌町が元気になるような催しがこれからも増えてくれたらと思います。(レポーター・小澤房子)



## 県議と町民ら討論、安全・経済が急務

岩手県議会議員と県民との意見交換会「本音で語ろう県議会」が4月25日夜、大槌町中央公民館で行われました。座長の樋下正信議員をはじめとする7議員と、釜石選挙区から小野共、岩崎友一の両議員、そして碓川豊町長が出席し、町民約20人と意見を交わしました。

災害復興住宅やシヤクへの風評被害についての意見もありましたが、積極的に意見が出されてい

たのは海や河川をめぐる問題でした。防潮堤や堤防、道路のかさ上げに漁港の復旧など、これからの大槌に必要な安全面・経済面の充実が急務である、と多くの人々が感じているということだと思います。

安全に暮らせて、海の幸で観光客をもてなす大槌。それを実現するためには、今回のような意見交換会で多様な意見をぶつけあうことが必要不可欠なのではないでしょうか。(レポーター・加賀研司)



## みさきレポート in 江刺甚句祭り



## 澄んだ歌声に盛大な拍手

奥州市で5月3日開かれた第40回江刺甚句祭りに白澤みさきちゃんが出演しました。会場となった江刺大通り公園には特設ステージが設けられ大型スクリーンをバックにみさきちゃんが5曲披露してくださいました。

みさきちゃんの代表曲「故郷〜Blue Sky Homeland〜」ではバックにフラダンスの優雅な踊りとのコラボもあり見ごたえのあるライブとなりました。

この日は風が強く寒い中、みさきちゃんは「私がステージに立つと必ず風が吹きます。私は風女です」とのトークもあり会場を和ませてくれました。澄んだ歌声に会場からは盛大な拍手が送られていました。

(文=レポーター・小澤房子、写真=北上市・高橋初美)

## お店レポート 鮭辰



## 地物にこだわる味復活

末広町にあった「鮭辰」さんが旧大槌北小学校の福幸きりり商店街で2年ぶりに営業を再開しました。

地物にこだわったネタ・女将さんのトークは以前のままで。大将の黒澤健さんは多くを語らず。先代から引き継いだ味を守り、再開できたことへの感謝の気持ちで寿司を握っています。

(町民レポーター・三浦寛)

営業時間 午前11時半～午後2時、午後5～9時(火曜定休)  
電話 0193-55-6122  
場所 福幸きりり商店街



## わらびうちな団地そばに鹿

4月13日夕方、小籠の「わらびうちな団地」の近くに一頭の鹿が現れました。大人の鹿のようで、人の姿に逃げる様子はなく、携帯電話で撮りました。昨年か一昨年にも2頭連れの鹿を近くで見ました。

(小籠第2仮設団地レポーター)

## 藤原紀香さん、初の大槌訪問



日赤広報特使の藤原紀香さんが4月2日、大槌町を初めて訪れ、碓川豊町長や職員らを激励。「心のケアが大切。赤十字ボランティアとともに(被災した住民と)コミュニケーションを取りたい」と藤原さん。城山公園の「希望の灯り」前から、津波で失われた街の跡を真剣なまなざしで見つめていました。(松本裕樹)

## イベントカレンダー

### 教室

託児付き ゆるーり ヨガ教室  
5月20日午前11時～正午、上町のおらが大槌夢広場「町方ドーム」。参加費450円(託児ありは720円)。託児希望の方は午前10時45分に大念寺集合。AMDA大槌・健康サポートセンター 42-8989に要予約。

羊毛フェルト教室  
5月21日午後2～4時、上町のおらが大槌夢広場「町方ドーム」。070-6954-4941。材料費300円。要予約。

パソコン教室(インターネット)  
5月22日午後2～4時、上町のおらが大槌夢広場「町方ドーム」。070-6954-4941。

パソコン教室(インターネット & Facebook講座)  
5月23日午後2～4時、上町のおらが大槌夢広場「町方ドーム」。070-6954-4941。

アロマスプレー&簡単マッサージレッスン  
5月25日午後2～4時、上町のおらが大槌夢広場「町方ドーム」。070-6954-4941。材料費500円。

写真教室  
5月25日午後6～8時、町役場前の復興ふれあい広場「どんりゅう庵」。カメラ好きが集まって、写真撮影の初歩を学びます。問い合わせは大槌みらい新聞 55-5908。

そば打ち教室  
5月27日午前11時～午後1時、上町のおらが大槌夢広場「町方ドーム」。070-6954-4941。要予約。

### 趣味

手芸サークル  
5月23日午後1～3時、大槌第15地割のAMDA大槌・健康サポートセンター 42-8989。要予約。

お茶の会  
5月28日午後2～4時、上町のおらが大槌夢広場「町方ドーム」。070-6954-4941。

### 健康・運動

補聴器相談会  
5月21日午前9時～午後2時、ショッピングセンター「マスト」2階マストホール。問い合わせは若手リオン補聴器センター宮古店 63-5133。

レッツ!ボクササイズ  
5月21日午後5～6時半、城山体育館城山体育館トレーニング室と5月28日午後2～3時半、同アリーナ。参加費100円。AMDA大槌・健康サポートセンター

42-8989に要予約。

イエローハウス健美館の健康教室  
5月22日と29日のそれぞれ午前10～11時半、大槌第15地割のAMDA大槌・健康サポートセンター。鍼灸師によるテーマ別健康教室。問い合わせや予約は健美館 080-1802-8028。

幼児・児童を対象とした体育教室  
5月28日午後3～6時、ショッピングセンター「マスト」2階マストホール。

### 行事

行政相談  
5月20日午前10時～正午、町役場1階相談室2。総務大臣から委嘱を受けた行政相談委員が、行政サービスへの苦情、行政の仕組みや手続きについての問い合わせなどの相談を受け付け、その解決のため助言したり行政

機関に通知したりする。問い合わせは町総務課 42-8710。

人権相談  
5月20日午前10時～正午、町役場1階相談室1。法務大臣から委嘱を受けた人権擁護委員が、身の回り起きた人権問題(近隣トラブル、セクハラ、高齢者や障がい者への虐待、家庭内暴力、差別待遇、いじめなど)について相談を受け付ける。問い合わせは町町民課 42-8713。

町戦没者追悼式  
5月25日午前10時～、町中央公民館大会議室。対象は町内戦没者遺族。金沢・小籠・赤浜・浪板各地区から送迎バス運行。問い合わせは町保健福祉課 42-8715。

第6回大槌のお楽しみ市～何んだべえ+フリーマーケット  
5月26日午前10時～正午、福幸きりり商店街駐車場。売り上げの一部を出店料として寄付して

もらい国内外の天災被災地に寄贈。出店申し込み・問い合わせは24日までに、NPO法人つどい 080-1838-1602。

盛岡医療福祉専門学校進学相談会  
5月26日午前9～11時半、ショッピングセンター「マスト」2階マストホール。問い合わせは同校入試広報センターフリーダイヤル 0120-514-124。

二重ローン個別相談会  
5月30日午前10時～午後3時、町役場1階相談室1。個人債務者向けの相談。問い合わせは個人版私的整理ガイドライン運営委員会岩手支部 019-606-3622。

和尚さんとカフェ\*バーベキュー  
5月30日午前10時～午後1時、大槌第15地割のAMDA大槌・健康サポートセンター。大槌や遠野の和尚さんとバーベキュー。42-8989に要予約。

雇用

# 若者の希望職場乏しく

## 復興への道⑨ 検証

### 地元志向に込めざる

大槌の復興にとって大きな課題は住宅再建に加え雇用の確保。「復興の力になりたい」と若い世代の地元志向も強まっている。復興特需に支えられ、雇用環境は震災前・直後に比べ格段に「改善」されているが、自らの将来を見据えて仕事をしたい彼女らからは「就きたい仕事が少ない」とのため息が漏れる。10年後に1000人の雇用創出を目指し、東京大が中心となって「産学公民」連携で林業・水産業を革新しようというプロジェクトも動き出した。将来の大槌を担う若者らを地元にとどめるか住民や事業所の知恵が試される。

#### 受け入れ事業所 足りない

釜石・大槌地区の新規学卒就職者を歓迎する「就職おめでとう大会」(釜石職おめでとう大会)(釜石商工会議所や大槌商工会など主催)が4月24日、釜石市内のホテルで開かれた。碓川豊町長は「この場



「就職おめでとう大会」大槌地区の新規学卒就職者を歓迎する。大槌から出席した新社会人は5人=4月24日、釜石市内のホテル

に胸を張って立っている若者の姿を見ると、産業が着実に力を取り戻していることを感じる。復興を加速させるためには若いエネルギーが求められる」との祝辞を寄せた。ただ出席した新社会人44人のうち、大槌からは5人にとどまり、うち3人は町役場の新職員で占められた。

#### 仕事多いが賃金低すぎる

新社会人らの晴れ姿を見守っていた大槌商工会の佐々木幸夫事務局長は「若者の地元志向は強くなっているが、受け入れる側の事業所数はまだ足りない。水産加工業が震災前から雇用に貢献してきたが、若者の価値観が変わってきているのか人手不足になっている」と指摘した。



釜石・大槌地区は震災前より就職者数が増え、求人数も3倍近くに伸び、人手不足感が強い。釜石市のハローワーク釜石

「仕事はたくさんあるが賃金が低すぎる」。震災直前に中古購入した小槌地区の住宅で高齢の父母と暮らす30歳男性。津波は免れたものの、住宅ローンが重くのしかかる。大槌高卒業後から働いていた釜

石の工場を昨夏退職し、町のために働きたい」と復興支援に取り組み団体へ申し出し、昨年暮れ、緊急雇用創出事業の期限切れに伴う雇用契約満了を機に辞め、「(地元)ほかに行く気はない」と地元での職探しを続ける。「復興支援活動はいつまでも続くわけではない。収入のほとんどがローンに消えてしまっている。仕事を選ばないとロー

#### 震災前の3倍近い求人数

ハローワーク釜石(釜石公共職業安定所)の奥友忠信所長は釜石・大槌地区の雇用状況について「震災前に比べ、就職者数は伸びているが、求人数も3倍近く増え、人手不足感がある。復興需要にも支えられ、仕事がないわけではない。しかし、他所から来たいい、地元に戻りたいとい

町商工労働課には雇用対策班が設けられ職員3人体制。大釜範之・町産業振興部長兼商工労働課長は、求人倍率はこの地域としては異例の高さ。一方では地元の残りたい若者

#### 10年後に1000人の雇用を

産学公民が連携し大槌に新たな産業や雇用を生み出そうという東京大の研究プロジェクト「東京大産学大槌イノベーション協創事業」が4月スタートし、

「小さなビジネスをたくさんつくり、10年後に1000人の雇用を生み出したい」と夢見る。「事業を回すのは最終的には住民」と、町民主体の産業創出と雇用創出を期待している。(松本裕樹)

大槌高進路指導主事の阿部潔司教諭は今春の就職状況について「昨年より(ハローワーク釜石)管内からの求人が相当増えている。震災の影響もあって家を離れたくない、地元に残りたいという生徒が多くなっている。ただ悪いことではないが、職種は選んでいるが、求人数も3倍近く増え、人手不足感がある。復興需要にも支えられ、仕事がないわけではない。しかし、他所から来たいい、地元に戻りたいとい

の生徒を正社員として半年以上雇用した釜石・大槌の企業に1人当たり30万円の奨励金を交付。12年度は9社に計12人分を交付した。町の新年度予算で雇用関連の新たな独自メニューはなく、事業再開に資する事業所が多いの



東京大学が開設したプロジェクト「東京大学大槌イノベーション協創事業」本部と常駐スタッフ2人=町役場3階

### 大槌高生、増える地元就職

人が東京でやっていたようなエンジニアをやりたいと限られた職種を希望する(「ミスマッチ」ということになってしまっている。仕事がないイメージがあるが希望する職種があるかどうかの問題」と説明した。ハローワーク釜石のまとめによると、釜石市・大槌町分の月間有効求人倍率(求職者1人当たりに対する求人数)は2010年度、0.5倍を下回り、震災発生翌月の11年4月は0.20倍にまで落ち込んだ。しかし、5月からは一転して上昇し12年7月1.16倍、同年12月1.72倍に達し、就職する環境は一応改善されている。